

鳥山学舎 世田谷区立鳥山北小学校
校長 河野 芳浩 様

鳥山学舎 世田谷区立鳥山北小学校
学校関係者評価委員会
委員長 高谷 あゆ子

令和6年度 学校関係者評価報告書

今年度の学校関係者評価アンケートの結果をご報告いたします。

保護者の皆さまに於かれましては、お忙しい中半数以上のご回答をいただきありがとうございました。本校の学校経営方針のひとつ「みんなが主役、みんなの学校、からきた小」の実現に向け、先生方はじめ保護者、地域の皆さまが一丸となって努力していることが表れた結果になったと思います。評価結果の詳細を見ながら、今後の教育活動がより良いものになるよう精査していきたいと思います。

調査結果の分析と考察

1. 『学校教育重点目標』に関する項目について

みとめあい 自分を大切にするようにお互いのよさを認め合うことができる資質・能力を熟成する

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	目標をもち、その実現に向けて努力している	70%	79.0% (69.6)
児	学校行事は達成感がある	80%	88.8% (81.4)
保	本校の教員は、子どもに目標を持たせその実現の為に支援している	60%	54.0% (57.1)

※児 = 5・6年生児童、保 = 保護者

児童の「目標をもち、その実現に向けて努力している」の肯定的評価は、昨年度と比べて大きく伸びています。一方、「本校の教員は、子どもに目標を持たせその実現の為に支援している」について、保護者の肯定的評価は目標値を若干下回っています。

これは、「目標」の捉え方が保護者と児童とでは違うことも一因なのではないかと考えます。保護者が考える「目標」はイメージが大きく抽象的であるのに対し、児童にとっての「目標」は日々の学習のめあてであったり、今週の生活目標といったごく身近なものであったりするのかもしれません。その小さなことの積み重ねの中で、達成できた喜びを感じたり、失敗から学んだりしていくことに大きな意味があるのだと思います。子どもたちが、日々の目標を持って努力をしているという事実が分かり良い結果だと思います。

まなびあい

カリキュラム・マネジメントやICT活用・せたがや探究的な学びの充実により、

「主体的・対話的で深い学び」を推進する

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	先生は、児童の意欲を大切にしている	80%	87.7% (82.0)
児	授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある	90%	95.4% (94.7)
保	本校は、子どもが考えることや課題を解決することを大切にした授業を行っている	70%	72.2% (76.5)

授業の内容に関する項目は、どれも目標値を大きく上回っています。

先生方が、世田谷区の目指す「探究的な学び」を大事にして授業を行っている結果だと思われます。先生が一方的に教える児童が受け身の授業ではなく、児童がめあてを決め、友だちと一緒に話し合う時間を経て、自分たちで振り返るといった「主体的・対話的で深い学び」が実現されている授業が定着してきていることが伺えます。

そだてあい

教師と子どもの信頼関係を基盤にした「支持的風土」のある集団づくりや

学校・家庭・地域が連携した「共育」により、学校力を向上させる

対象	項目	目標値	本年度（昨年度）
児	学校生活は楽しい	85%	87.2% (85.1)
児	先生に注意されたことは、理解できる	90%	94.3% (92.0)
保	学校生活は子どもにとって楽しい	85%	83.7% (86.6)

児童の回答に関しては、どの項目も目標値に達し、また5年生と6年生の結果に差がないことから、先生たちがよく見てくださっていることが伺える結果でした。

児童の「先生に注意されたことは、理解できる」の数値も高く、教師と児童の信頼関係が構築されていると考えられます。実際、休み時間によく話をしていたり、先生が一緒に遊んだりしている光景も目にします。そういった日頃からのふれあいや何でも話せる関係性を今後も大事にしていってほしいと思います。

2. アンケートの回答分布

I. 児童の顕著な結果から

◎児童の肯定的回答が多かった項目（「とても思う」、「思う」の割合）

項目	%
先生たちは、ていねいに指導してくれる	96.4
授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある	95.4
先生に注意されたことは、理解できる	94.3
先生は、課題(めあて)について自分で考えたり友だちと考えたりする時間を授業の中で取っている	93.9
先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている	93.8

今年度は、様々なゲストティーチャーを呼んで授業を行いました。3年生のタグラグビー体験(リコープラックラムズ東京)、3年生の久我山青光学園との交流、4年生では複数のALTによる英語体験授業、5年生のいじめについて考える授業(「せたホッと」勤務の弁護士の講話)、6年生の古典芸能鑑賞教室など、とても興味深い内容です。ゲストティーチャーによる具体的な体験談や専門性の高いお話は、児童にとって強く心に響く有意義なものとなったことでしょう。今後もこのような活動に力を入れていただきたいと思います。

また、「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている」についてはとても高い評価で、ICTを活用した授業が定着していることが伺えます。今後もICTを活用した分かりやすい授業に取り組むと共に、タブレットの適切な扱い方にも留意し、実際に顔を合わせて話し合う活動など学校でしかできない学習も合わせて大切にしていただきたいと思います。

◎児童の否定的回答が多かった項目(「あまり思わない」、「思わない」の割合)

項目	%
学び舎の中学校に行ったり、中学生がきたりする機会がある	33.9
自分の生き方や将来のことについて考える授業がある	27.7
自分には、よいところ・好きなところがある	26.7

中学生との交流は、例年通り行っています。6年生の部活動体験やあいさつキャンペーン、中学生が来校しての運動会ボランティア、から北寺子屋ボランティア、中学校生徒会が6年生向けに学校生活の説明会実施など、今後も交流を深めていけると良いと思います。

「自分の生き方や将来のことについて考える授業がある」「自分には、よいところ・好きなところがある」に関しては、キャリアパスポートの更なる活用や自分の生き方や将来のことについて考える機会を設けたり、授業の中で感想を出し合ったりするなど、今後も道徳教育やキャリア教育を更に充実していくとよいと思います。

II. 保護者の顕著な結果から

◎保護者の肯定的回答の多かった項目(「とても思う」、「思う」の割合)

項目	%
私は自分の子どもと学校生活について話をよくしている	93.2
学校行事は子どもにとって楽しい	92.3
本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもたちに安全に関する指導をしている	90.7
私は学校公開にすすんで参加している	90.1

学校生活についての項目は、どれも高い評価となっています。特に今年は、安心・安全な学校に関する項目の数値が上がってきました。毎月行われている避難訓練は、災害だけでなく不審者対応など様々な有事に備えての訓練を行っています。また、セーフティ教室では、成城警察署の方が腹話術を用いて子どもたちに分かりやすくお話をくださいました。防災、防犯意識は年々高まっていると感じられる結果でした。今後とも、より安心・安全な学校づくりを目指してご尽力をお願いいたします。

◎保護者の否定的回答の多かった項目（「あまり思わない」、「思わない」の割合）

項目	%
子どもは、家庭で自主的に学習をしている	43.2
「学び舎」の区立（幼稚園）中学校について情報が提供されている	38.9
私は、今年度の学校重点目標を理解している	35.5

学校重点目標の周知に関しては毎年の課題となっておりますが、今年度はホームページや青がし（学校だより）で「みとめあい・まなびあい・そだちあい」の文字をよく目にするようになりました。保護者の皆さんに、それが本校の学校重点目標であることを認識していただけるよう、引き続き伝えていただきたいと思います。保護者や地域の方に学校重点目標と一緒に意識していただくことで、学校経営計画の「そだてあい」に示してあるような「学校・家庭・地域が連携した共育により、学校力を向上させる」につながっていけばよいと思います。

III. 地域の顕著な結果から

◎地域の肯定的回答の多かった項目（「とても思う」、「思う」の割合）

項目	%
学校行事の内容は充実している	93.8
学校は安心・安全な学校づくりをすすめている	90.7
学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる	90.6

毎年、地域の皆さんからは肯定的評価をいただいています。常日頃から本校に関心を持って見守ってくださっていることが伺えます。今後も、地域の方々に学校だより（青がし）やホームページ、広報誌、学校運営委員会だより等を通して学校の様子を知っていただきと共に、から北寺子屋・昔遊び等への協力を呼びかけるなど地域とのつながりを大切にしていただきたいと思います。また、子どもが小学校を卒業して地域の人となった保護者の方や卒業生など若い世代の方々が、卒業後も本校の教育活動に積極的に関わってくださることを期待します。

〈おわりに〉

今年のアンケートの回答率は Web 配信での調査に切り替わった昨年度に比べ、更に下がっているのが現状です。近年私たちの身の回りのスーパーや飲食店、職場等でも IT 化が急速に進み、効率的で便利な世の中になっていました。教育現場でも ICT を活用することが当たり前となり、PTA 関連でのペーパーレス化も進んでいます。日々たくさんの情報がスマートフォンに送られてきて、ついつい読み流してしまったり、当事者意識が薄れてしまったりすることがあると思います。共に子どもたちを育てる者として、学校に関わろうとする姿勢と、必要な情報を取捨選択する力を養わなければならないと痛感しています。

地域の拠点となる学校運営を目指すには、学校・保護者・地域の連携が不可欠です。今後とも子どもたちの健全育成と更なる学校改善のため、本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年度 学校関係者評価委員

高谷 あゆ子、田中 映子、阿部 純子、
今川 陽子、庄司 貴子、門脇 望